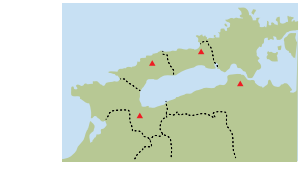


かんなぎび



「かんなぎび」とは「神の隠れこもる」という意味で、**神名櫃(神名火)**、**山は信仰の対象として崇められていた特別の山のこと**を指していると思われます。
『出雲国風土記』には、**意宇郡、秋鹿郡、楯縫郡、出雲郡**に記されています。すべて宍道湖を取り囲むようにそびえ、とくに湖面から美しい姿を見せています。

国府付近から見ると二つの峰が並んだような姿をしているが、実際には独立丘陵、西側や宍道湖岸から望むとU字ミッド状の美しい姿が見える。南側の中腹には「間内の滝」があり、その上に平坦地が、さらにその上には「聖岩」と呼ばれる岩がある。このあたりが、現在ふもとにある**真名井神社**の元の社地だったようだ。頂上は甲世に城として利用されたため、平坦に整地されている。南北から登山道も整備され、気軽に登ることができよう。

意宇郡

神名櫃野 郡家の西北三里一百二十九歩なり。高さ八十丈、周り六里三十二歩あり。東に松あり、三方は並びに茅あり。
松江市山代町から竹矢町にかけてある**茶臼山(一七一〇)**のこと。この山の西にかけてのゆるな台地上や南に広がる**意宇平野**には、国府、国分寺をはじめ、国や郡の公的施設があったことが知られている。またに出雲国の中心地にあったかたなびとも言える。



宍道湖から見た姿(平田市宍道湖公園より撮影)

茶臼山

秋鹿郡

神名火山。郡家の東北九里四十歩なり。高さ二百三十丈、周り一十四里あり。謂はゆる**佐太大神**の社は、即ち**彼の山の下なり**。

佐太大神の社があったという秋鹿郡の**神名火山**は、松江市長江町と鹿島町の境にそびえる朝日山(三四一〇)のこと。佐太神社は、今でも朝日山から東に延びる丘のふもとにある。松江市内から湖北の方向を見たときに最初に目につく山で、当時、東から宍道湖に入ってくる舟からは、まずこの神名火山が目にはいったことだろう。

一九七二年、北側のふもとの斜面から、銅鏝二個と銅剣六本が同時に見つかった。これが志谷奥遺跡で、弥生時代からすでに、人びとに崇められていた山だったのだ。現在、頂上には朝日寺があり、道もきれいに整備されている。中腹までは車で行けるので、ぜひ訪ねてみたい山だ。頂上に立つと、北側は海がすぐ間近であることに驚く。天気の良い日は、隠岐まで望むことができる。



松江市西浜佐陀町・潟の内越しに見る朝日山



志谷奥遺跡

佐太神社

楯縫郡

神名櫃山。郡家の東北六里一百六十歩、高さ一百二十五尺、周り二里一里一百八十歩あり。東の西に石神あり。高さ一丈、周り一丈。徑の側に小石神百餘許あり。古老の傳へに云へらく、阿遲須積高日子命の后、天御梶日女命、多宮村に來坐して、多伎都比古命を産み給ひ給ひ。爾の時、教し詔りたまひしく、汝が命の御祖の向位に坐すまひしむるに、此處を直せよとのりたまひし。謂はゆる石神は、即ち是れ多伎都比古命の御魂なり。早に當ひて雨を乞ふ時は、必ず雪らしめたまふ。

国風土記では記している。鳥帽子岩の下方には「長滑の滝」と呼ばれる日照りにも濡れない滝があるといつのはおもしろい。山の西側斜面からは、数多くの土器などが出土している。弥生時代終りから古墳時代はじめ(約一七〇〇年)前のものや、古墳時代後期以降の土師器が岩の陰などから出土しており、かなり古くから祭祀をしていたことがうかがえる。



鳥帽子岩

平田市多気町北方にそびえる大船山(三二七m)が、楯縫郡の神名櫃山と考えられる。国道四三二号線(湖北線)あるいは一畑電鉄から、およそ宍道湖が切れるあたりで北を望むと見える山がそれだ。頂上が三峰に分かれているのが目印である。

山上の西側には高さ約三メートルの石神があり、また小道の近くには小さな石神が一〇〇ありあると記されている。実際、山頂西側にある峰の斜面には、通称「鳥帽子岩」と呼ばれる高さ四・五メートル、周圍九メートルほどの直立した岩がある。さらにその周囲には、数多くの大小の岩が顔を出している。また、出雲国風土記に記されているとおりだ。このあたりからは出雲市や、斐川町の平野、遠くは三瓶山まで望むことができる。山全体が岩山で、各所に巨大な岩がそびえ、沢には小さな滝も随所に見られる。信仰の対象としてついでついでと言えよう。日照りの石神に折って雨乞いをする、かなたの雨が降るよ。出雲



大船山 (平田市多気町より撮影)



大船山で出土した土器



長滑の滝

出雲郡

神名火山。郡家の東南三里一百五十歩なり。高さ一百七十五丈、周り一十五里六十歩あり。曾支能夜社に坐す伎比佐加美高日子命の社、即ち此の山の嶺にあり。故、神名火山と云ふ。

斐川町神氷の南にそびえる**仏経山(三六六m)**が、出雲郡の**神名火山**。簸川平野のどこからでも望める、電波塔のある山。松江からでも、湖北線を西に向かう途中で見ることもできる。

曾支能夜神社はこの山のふもとにあり、今でも中腹の岩屋で祭りを行っている。三五六本の銅剣などが出土したことでも有名な**荒神谷遺跡**からは、狭い谷の間にこの**仏経山**がきれいに見え、この地に大量の青銅器を埋めるにあたって、**神名火山**が見えるというは、必須の条件であったのだ。近年発掘調査で明らかになった**出雲郡の家(役所)**は、この山のふもとにある。



荒神谷遺跡から望む仏経山

仏経山